

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200117	
法人名	社会福祉法人 啓和会	
事業所名	グループホーム東山しょうぶ苑	
所在地	福島県会津若松市千石町5-8	
自己評価作成日	平成23年11月9日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成23年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

継続して「笑顔」を目標に掲げ、利用者、職員が、毎日笑顔で楽しく過ごせるよう日々努めています。利用者一人ひとりのニーズや個性に応じた支援を提供すると共に、年々重度化しつつある中で、常に利用者の状態の変化に気付き、対応が出来るよう心配りをしています。家族の方々には、誕生会や苑での行事の参加を呼びかけ、利用者との楽しい時間を過ごして頂けるよう工夫しています。職員に関しては、チームワークを大切に、苑内の雰囲気や生活を良くすることで、より利用者、及び家族の方々が安心した生活を過ごせるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 職員の「気づき」と試行によって利用者の精神的不安の原因にたどりつき、ケアすることで落ち着きと安らぎをもたらした。
2. 「山菜採りをしたい」という利用者の要望をさりげなく引き出し、利用者が能動的に外出する利用者本位の外出支援を行っている。
3. 利用者の服薬効果に疑問がもたれた際、家族と医療機関と連携を図りつつ適切な服薬をもたらすなど利用者のための支援を行っている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初に職員全員でつくった理念に基づいたサービスを継続し、常に初心を忘れず実践していけるように努めている。	理念を事業所内に掲額している。見ることでの理念の共有化を図っている。地域との繋がりを考えながら、利用者に対して目配り、気配りしながら、要望や希望などの「気づき」が出来るように語り合っている。	理念について、職員らが日常的に語り合う機会を設けるなどの共有化を図るための工夫を期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入させていただいている。地区の早朝草むしりや運動会や歳の神等、利用者と共に参加し、地域の方々との交流を深められるよう努めている。	事業所周辺の小学校の運動会や町内の歳の神などの行事に参加している。また、近所の公園の早朝草むしりに利用者1人と職員が参加するなど地域との交流を行っている。お茶呑み場のサロンをつくらうと働きかけたが天候に恵まれず成功しなかった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	東山地区ケア会議に出席した際に、グループホームでの実践報告を行い、グループホームとは、認知症ケアとは、等説明した。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方々に、消防署立会いの防火訓練に参加していただき、不備な点等を指摘していただき、事務局へ報告、改善出来る点、出来ない点を話し合うことができた。	町内と隣接町会の区長が運営推進委員で、積極的にアドバイスをいただいている。避難口が低く頭がぶつかりやすい部分にクッションを取り付け、怪我を未然に防ぐというアイデアや避難訓練時に利用者の待避確認に部屋の入口にシールを張るなどの提案を実行した。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	3ヶ月に1回、東山地区ケア会議に出席している。また、市へ報告が必要な介護事故が発生した場合は、速やかに報告している。	地域包括支援センターの方に運営推進委員になっていただいている。また地域包括支援センターが主催の東山地区ケア会議に出席しており、認知症について理解を深める場となっている。また、帰宅願望の強い利用者が抜け出した時等、介護事故発生時は、速やかに市へ報告している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加し、学んだことを基に、拘束にあたるケアを行わないよう取り組んでいる。玄関ホールにセンサーを設置し、職員が出入りに気付くようにし、日中は施錠していない。	年に一度の研修に全員参加し、センサーの取り付け位置を調整するなどして施錠のないケアを実践している。職員のチームワークで気配りや見守りを所内で絶やさず安全を確保している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し、学んだことを基に双方の虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある利用者がまだいない為、支援は行っていないが、後見人制度等の文章を事務所内に掲示し、理解するよう取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分に説明し、理解、納得していただいた上で契約を結んでいる。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については、各利用者に担当職員を配置し、利用者の気持ちを引き出せるよう努めている。また、日々の関わりの中で、意見や要望を聞きだし運営に反映できるよう心がけている。家族については、面会時、話しやすい雰囲気づくりが心がけている。	言葉に出さない利用者の声を聞き出し、応えている。落などの山菜取りの要望では参加者が多く2回に分けて行った。家族へは利用者の日々の変化を報告することで面会時に要望を引き出しやすくして、馴染みの美容室を使って欲しいなどの要望に応えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回は、職員会議を開催し、職員同士に必要な内容の話し合いを行っている。また、日々のミーティングでも職員の気付き等話し合い、運営や利用者一人ひとりのケアに反映できるよう努めている。	職員の利用者に対する「気づき」を徹底し、意見や提案を積極的に行わせることで利用者のケアに活かしている。亡くなった夫の写真が利用者の精神を不安定にしているのではないかとこの意見に対応し、写真を外してみるなどの試行の結果、精神的安定をもたらした。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(理事長)は、出来る限り現場に出向き、職員や利用者とのコミュニケーションに努めている。その中で代表者自ら法人運営に参画し、職員の働く意欲向上や質の確保を図っている。介護職員処遇交付金を処遇改善手当として支給している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人の研修はもちろん、外部研修にも参加し、職員の質の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連法人を含めたグループホームの管理者会議を開催場所を変えながら毎月開催し、管理者同士の情報交換をしている。また、2ヶ月に1回研修会を掲載し、職員同士の交流や意見交換できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人や家族、及び介護支援専門員から入居前の状況、状態を伺い、ケアサービス内容に反映できるようにしている。また、本人の表情、動作に目配り、耳を傾け、少しの変化に気づき対応できるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>実態調査、契約時に、これまでの介護の経過や現在困っていること、不安なことを聴き、今後の援助に家族の思いが反映できるよう話し合っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居相談を受けた際に状況などを確認、早急な対応が必要な場合は、他の施設等を紹介している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の得意とする分野を引き出し、お手伝いして頂くことで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>月1回お便りでの近況報告や、少しでも気付きがあったり、身体的な変化が見られれば、その都度、面会時や電話等で報告し、共に支え協力して頂けるように取り組んでいる。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの美容室への付添い、または送迎を行ったり、昔ながらの友人や親戚の方が、いつでも面会に来やすいような声かけに努めている。</p>	<p>馴染みの美容室への付き添い支援のほか、祭り囃子に関心を示した利用者を生まれた地域の祭礼にお連れして大変喜ばれた。また、親戚や知人、友人らが来所したときにお茶出しして雰囲気づくりをして来やすしたり、電話をして来所を促している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者の状態や性格の把握に努め、常に様子を観察することで、職員が仲裁役となり、孤立することなく、トラブルを防ぎ、楽しく生活していけるよう支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転所になった数日後に、どのように過ごされているか、移った施設の生活相談員へ電話連絡し、様子伺う。また、その利用者にとって大事なケア内容を伝えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に1回のモニタリングはもちろん、日常生活の中での何気ない会話に耳を傾けることで、希望等が自然に聴き出せるよう心がけ、また、その意向を申し送りや会議で意見交換をしている。	利用者の日々のケアの中で、さりげない会話や動作から希望や意向を伺い、気づき、それを、朝夕の申し送りや会議で実現に向けている。利用者の生まれた町のお祭り見学は「気づき」から検討し、実現を図った。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査、担当介護支援専門員からの情報収集はもとより、入居されてからも家族からの情報、または、日頃より本人の言葉に耳を傾けることで、本人の情報収集につながっている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、性格等を考慮し無理強いることなく、その日その日の状態により出来ることをして頂いている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議、または、モニタリングにて担当の職員が本人の要望等を聴き、及び家族からも要望等を伺っている。それに基づき職員間でも意見交換をし、介護計画に活かしている。	サービス計画を文章化するのには3ヶ月に1回だが、職員の気づきや利用者家族の希望も取り入れたり、また、主治医を交えた介護計画の変更はいつでも行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい介護記録、チェック表の活用、又、状態の変化があれば、その都度報告しあい情報の共有をしている。問題点、改善の必要があれば職員会議等で意見交換し、ケアの改善、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族都合により、急に受診等の付き添いができなくなった場合は、職員が対応している。又、その日の天候や利用者の状況により、気分転換にドライブ等取り入れ、楽しんでもらえるようにしたりし、既存のサービスに捉われないように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、イベントに参加し、ボランティアの訪問などでも交流を深め、楽しく、生きがいのある生活を支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に応じたかかりつけ医になっている。家族、または職員が付添い、どちらの場合でも受診結果を共有している。急変時には、職員同行し、適切な医療を受けられるよう支援し連携を図っている。	昔からのかかりつけ医に3人が受診し、家族対応で受診している利用者は2人いる。この他は提携している医療機関を利用している。利用者や家族の意見を反映し、かつ、適切な医療を受けられる態勢を支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受け、状態報告し、適切な指示を受けている。又、訪問時に、介護職員では難しい爪の処置も行ってもらっている。体調に変化があった際には、24時間電話で看護師に相談できる体制をとっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入退院に関する利用者はいなかったが、過去の入退院者に関しては、入院中の状態把握や病院関係者や家族と連絡の取り合い、又、退院時には院内カンファレンス開催の働きかけも行っていった。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制及び重度化・看取りに関する指針を定めている。契約時に、重度化等についての対応を説明し、その都度相談、検討が必要になってくることも説明している。又、状態変化の際は、家族に報告、意向を確認しながら相談している。	重度化に向けた方針は明確で、事業所で出来ることは利用者家族に説明しており、方針の共有化は図られている。また、家族の意向も確認しており、医療機関と連携した支援内容が確立している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が救命講習を受けている。事故発生時のマニュアルも目につくところに掲示している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回程度の防災訓練を実施している。防災グッズも準備している。防災時の連絡網に、区長、民生委員の方々、近隣在住の家族の方々にも加わってもらっている。	防災訓練は毎月一回実施している。町内会の区長さんが自転車で駆け付けるなど実践しながら行われている。食糧やラジオ、おむつやタオルなどを入れたリュック型の防災グッズを準備している。	消防署の指導で夜間訓練を行う予定になっている。消防署を交えた訓練は現在1回だが、夜間訓練を加えて年2回の防災訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	培ってきた経験や知識を尊重し話しを傾聴して、しっかりと気持ちを見極め、一人ひとりのプライドやプライバシーを損ねない言葉かけができるよう努めている。	利用者はさん付けでお呼びしている。入室の時も声をかけてから入る。排尿などの促しの際は小声か身振りで伝えている。	言葉掛けの際、声のトーンや言葉遣いに人格の尊重を謳った事業所理念の「共に思いやり」が本当に活かされているかどうか、確認しながら行われることを期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での何気ない言葉にも耳を傾け、また言葉だけではなく表情の変化にも目を配り、本人の思いが引き出せるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全に生活できるよう目配りし、必ず本人に声かけ、希望を聴き、無理せず本人のペースに合わせて活動、生活できるよう心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容が必要と感じた時は、利用者及び家族に伺った上で、馴染みの店を利用して頂いたり、希望があれば訪問美容の利用支援を行っている。又、入浴時のスキンケアなどの細かいところにも気を配るよう心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普通の何気ない会話をしながら一緒に調理をしたり、盛り付け配膳等の作業を行っている。また、彩り良く、見た目にも楽しく食事できるように工夫している。	利用者の健康を確認しながら調理の準備や後片付けを手伝ってもらいながら日々の食事を楽しんでいる。また、誕生会や敬老の日の行事食では、赤飯や刺身、ケーキ、手作り寿司、釜飯など好みに即した特別メニューを組んだり、花見の外出では弁当を突っつくなど食事を楽しむ支援を行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を、毎食毎に記入し、変化に応じて体調確認している。また、摂取量が少ない場合は、その利用者の好みに応じて補給できるよう工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自立している利用者については、本人に任せている。他、一人ひとりのニーズに合わせて、口腔ケアの声かけ、歯磨きの見守りや介助、歯磨きセットや義歯預かり等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状況に応じた支援を行うことで、排泄の自立支援を行っている。	自立している利用者は6人いる。ほかの利用者については、一人ひとりの排泄パターンを把握し、骨折防止を図りながら見守り、誘導ケアを行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	継続して朝食時には黒米を使用、入浴後には牛乳を飲用、野菜や果物を取り入れたメニューの工夫や散歩、ラジオ体操を行うことで便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるよう準備している。夕食後の入浴も行っている。	基本は毎日入浴を行っている。利用者の体調や希望に応じて回数が減ったり、夕食後の入浴も出来る。一番風呂の希望者が多く、順番はローテーションにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの、その日の体調や気分に合わせて休息して頂いている。その中で、規則正しい生活が送れるよう日中の活動の声かけに努めている。又、夜間眠れないと訴えがあった時は、少し話し相手になることで、安心して休まれるよう心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば必ず申し送り、または申し送りノートに記入し、職員全員が把握できるようにしている。薬の変更により状態の変化が見られた場合は、医師、家族に報告している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や掃除、洗濯物干し等、畑仕事等、個々のできること、得意とすることを生かした役割を持っていたりしている。職員は、必ず感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生まれ故郷のお祭りに見学に行き懐かしがられ喜ばれた。又、読書が趣味な利用者とは、本屋に一緒に出かけ購入してくる等の外出支援を行った。	食材の買い物にはほぼ毎日出かけている。本屋への買い物支援や墓参りは家族同伴を薦めているが、都合がつかない場合は職員が同行支援している。路取りは職員がそれとなく要望を引き出し、生まれ故郷へのお祭り見学も職員の気づきから実現するなど、外出は利用者の希望を積極的に引き出し、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持している方はおらず、職員管理としている。買い物希望時には職員同行し、購入支援したり、または、職員が希望の物を購入する支援を行っている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば、電話をかけお話ししていただいている。又、希望がなくても、家族より贈り物が届いた際には、職員から連絡し、本人と話していただいたりしている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>壁面には、月々の写真や利用者の作品の展示、共有スペースには季節の花を飾ったり、七夕飾り、お雛様や団子さし等を飾ることで、季節を感じられるよう工夫している。日中は、中庭が見えるよう障子戸を開け、プランターに植えた花や庭木が見られるようにしている。</p>	<p>トイレや廊下はゆったりとし、安全で使いやすい。対話式のカウンターテーブルとフロアー、日本間に続く間取りは落ち着きがあり、中庭は家庭的雰囲気と季節感を醸し出している。日本間は自然光がたっぷりて利用者が思い思いにくつろげる様になっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室には炬燵、ホールにはソファースペース、台所にはカウンターを設置し、気の合う利用者同士、又は一人ひとりが、思い思いの場所で自由に利用していただいている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>思い出の品や写真、小物等を飾っていただき、居心地の良い空間となるよう配慮し、落ち着いた雰囲気でも生活できるよう努めている。利用者同士居室を歩き来され、楽しそうに談話されている時も見られる。</p>	<p>室内には三畳の畳の間もあり、落ち着きのある居室になっている。利用者は家族との思い出の写真を貼ったり思い思いの飾り付けで居心地のいい室内に工夫している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内は、全てバリアフリーとなっており、安全に移動ができる。又、職員がホーム内を見渡せる環境であるので、安全の確保に努めると共に、自立した生活が行えるよう配慮している。</p>		